

小説

『パンとペンの事件簿』

柳 広司 著

暴漢に襲われ危ういところを助けられた“ぼく”が気がついた場所は、文章に関する依頼は何でも引き受ける「売文社」という風変りな会社。極悪人と目されている売文社一味だが次々持ち込まれる難題や事件をペンを以て制す。弾圧の時代に実在した社会主義組織をモチーフに描く珠玉の推理録。

趣味 実用

『アレの正しい使い方図鑑』

東京トリセツ研究会 編

「電卓の打ち間違いにイライラ」「正しい歯磨きの仕方は?」「携帯トイレ、備えてはいるけど…」日常生活のちょっとした疑問からアウトドア、緊急時まであなたのモヤモヤを解消する、お得な役立つ情報が満載。よく目にする、知っているようで知らない“アレ”の使い方を教えます!

小説

『最近』

小山田 浩子 著

心臓の不調を訴え、夫が救急搬送された。非日常の状況下、薄暗い深夜の病院の待合室で一人待つ妻の頭を巡る、スマホの充電、幼い頃の記憶、そして赤い猫を見ると死ぬという噂——。コロナ禍により常識や良識がすっかり入れ替わっていく数年間の、生活と揺らぎを精緻に捉えた濃密な連作小説。

趣味 実用

『政治のわからないことを結論から教えてくれる本』

塚本 哲生 監修

政治献金、マイナンバーカード、国際紛争など日頃から耳にするキーワードについて自信を持って答えられますか? そんな今さら人に聞けない、ネットで調べてもいまいち掴めない政治の疑問について結論から答える、忙しい現代人に最適な1冊。

小説

『死ねばいい! 呪った女と暮らします』

保坂 祐希 著

76歳の真理子は、30年前に離婚して以来、心通わせる身内も友人もなく、質素儉約に励む日々。ある台風の夜、庭先で怪我をしていた行き場のない老婆に強い親しみが湧き、一緒に住まないかと持ちかけた。破天荒な彼女との新鮮で刺激的な毎日がずっと続けばと思うが実は彼女は……。

趣味 実用

『とっさに言葉が出てこない人のための脳に効く早口ことば』

川島 隆太 著

「カワウソかわいそう」「母ハワイへ 父秩父へ」「ニラレバ2倍食べられる?」など、脳機能のスペシャリスト・川島隆太教授と早口ことば芸人・大谷健太がタッグを組んだユニークな脳トレ本。言えても言えなくてもたのしい気持ちになること必至?!

小説

『賊徒、暁に千里を奔る』

羽生 飛鳥 著

様々な話を集めて説話集を編纂する夢を持つ下級貴族・橘成季はたちばななりすえ仏師運慶と少年僧侶と共に、ある老侍のもとを訪れていた。その男の正体は、かつてその名を轟かせた大盗賊・小殿。ことこの成季たちは今宵もしずや賤家で語られる、日本中を駆け抜けた伝説のダークヒーローの大胆華麗な手口に耳を傾ける。

趣味 実用

『心地いい団地ひとり暮らし』

宝島社

昔ながらの押し入れや鴨居にすりガラス。昭和の雰囲気漂う絶妙な色味の玄関ドア。そのノスタルジーさと、新築や築浅ではないからこそ自分らしい空間に変えられると再び注目を浴びている団地の暮らし。築古ライフを満喫している達人たちの部屋づくりと心地よいおうち時間を紹介します。

小説

『楽園の夕べ』

ルシア・ベルリン 著

多くの作家に影響と衝撃を与えながらも、生存中、日の目を見ることのなかったルシア・ベルリン。3度の結婚と離婚、職も転々とし、アルコール依存症にも苦しみ……。没後10年を経て脚光を浴びた、自らの経験を下敷きに描く「奇跡の作家」の苛烈な人生の破片が散りばめられた短編集。

趣味 実用

『ボス猫メトとメイショウドトウ』

佐々木 祥恵 著

表紙に映っているのは、G1を制した名馬・メイショウドトウと背中に飛び乗る看板猫メト。ここは日本有数の競走馬の産地、新冠町にある引退馬が余生を過ごす牧場・ノーザンレイク。ふらりと現れ、牧場の窮地を救った1匹の猫と引退馬たちの友情を綴ったフォトブックです。